

連載

欧州から (4) 二つの引退劇

Hiromi J. Ishii
City University UK
Dept. of Music

概要

この連載記事は主に欧州における現在の電子音響音楽に関する様々な活動や問題を電子音響音楽と一般社会、電子音響音楽と教育、電子音響音楽と現代音楽界などの観点からレポートしていく。

This article-series reports today's issues and activities associated to electroacoustic music in Europe from the viewpoints of "electroacoustic music and general society" "electroacoustic music and education" and "electroacoustic music and contemporary music society".

1. デニス・スモーリー教職引退

2009 年秋、英国シティ大学のデニス・スモーリー (Denis Smalley) 教授が自身の創作活動に専念するため 2 年の任期を残しての教職引退を発表した。

スモーリーは電子音響音楽界の理論的リーダーの一人として知られる。ニュージーランド出身、フランスでオリヴィエ・メシアンに作曲を師事、英国ヨーク大学にて作曲専攻で PhD(博士号) を取得、GRM、イースト・アングリア大学教授を経てシティ大学教授。彼の Spectromorphology and Structuring Processes (1986)、Defining Timbre Defining Timbre (1994)、Space-Form and the Acousmatic Image (2007)¹ などの論文は電子音響音楽作曲家達を啓発し、それらの作曲上の実践としての作品群は他の作曲家達の注目を集めて来た。また世界で最も信頼される音楽辞典のひとつである The New Grove Dictionary of Music and Musicians の第二版 (2001)² 『電子音響音楽』の項は、彼および同僚作曲家のサイモン・エマーソン (現ド・モントフォート大学教授) による共同執筆であり、その明快な解説は高く評価されている。

また「スモーリーは英国に電子音響音楽を初めて持ち込んだ重要な人物 (エマーソン=前出)」であり、「英国の殆ど全ての電子音響音楽作曲家は彼の影響を受けてい

る (ジョンティ・ハリソン=バーミンガム大学教授)」。教育者としても数多くの若手作曲家達を育て、その中にはブルージュ、Musica Nova、CIMESP (サン・パウロ) など重要な国際コンクール優勝者入賞者またフェスティバル入選者達も多い。

スモーリー退職を知ったハリソンは、ド・モントフォート大学のジョン・ヤングとともに、退職へのはなむけとして「プロジェクト・デニス」を秘密裏に企画、スモーリーと交流のある世界中の友人作曲家達および彼に師事した作曲家達に呼びかけた。

「彼の退職にアコースマティック作品を贈りたいと思う。その為に音響素材が必要なので、彼の影響を受けた、または彼らしいと思う、または何らかの形で彼との関係がある (しかし彼自身の作品からではない) 音響素材を 15 秒以内で提供してほしい」このプロジェクトに参加した作曲家達は次の各氏。

Mathew Adkins, Javier Alvarez, Martin Stig Andersen, Elizabeth Anderson, Newton Armstrong, Natasha Barrett, Daniel Barreiro, François Bayle, Rodolfo Caesar, Lelio Camilleri, Michael Casey, Michael Clarke, John Dack, Robert Dow, Francis Dhomont, Simon Emmerson, Ambrose Field, Rajmil Fischman, Mike Frengel, Pablo Garcia, Thomas Gardner, Guy Harries, Jonty Harrison, Jonathan Harvey, Folkmar Hein, Bennett Hogg, Hiromi Ishii, Volkmar Klien, Leigh Landy, Andrew Lewis, Igor Lintz-Maués, Theodoris Lotis, Alistair Macdonald, Adrian Moore, Steve Montague, Peter Nelson, Michael Norris, Robert Normandeau, Erik Nyström, Aki Pasoulas, Aquiles Pantaleao, Laurie Radford, Jean-Claude Risset, John Rimmer, Paul Rudy, Rodrigo Sigal, Adam Stansbie, Pete Stollery, Ambrose Seddon, Jo Thomas, Barry Truax, HansTutschku, Rodrigo Velloso, Annette Vande Gorne, Mike Vaughan, Alejandro Viñao, Martin Vishnick, Simon Waters, Chih Hung Weng, Trevor Wishart, Rob Worby, John Young

二人は素材をもとに約 1 カ月半の早業で作品を完成

¹ いずれも邦訳は知られていない。

² 未邦訳。

させ、10月13日の引退コンサートにおいてハリソン自身のディフュージョンで『DENIS (Diffusion Enhanced Network of Inspired Sounds)』と題された作品がスモーリーに披露献呈された。この模様は翌日ハリソン、ヤング両氏から参加作曲家達へ伝えられ、作品はド・モントフォート大学のHPで公表された。

「デニスには明らかに感動した様子だった。皆様の協力に感謝します」。これに対して、「ウェルダン、ジョンティ！成功おめでとう」「我々をこのような素晴らしい企画に加えてくれてありがとう」といった応答が世界中から返され、バリー・トルーアクス氏、アンブローズ・フィールド氏等からは「彼の重要な作品で出版されていないものがまだ多くある。これらとともに出版したらどうか」との提案も出された。また世界で最も鋭い耳を持つ作曲家ともいわれるスモーリー自身からも参加作曲家達への感謝とともに、「誰がどの素材を提供したのか、作品をゆっくり聴き直してみたい」とのメッセージが各氏に送られた。

スモーリーは今後は博士課程学生の指導のみ継続する。また大学側はスモーリーの電子音響音楽分野における業績を讃え、彼を名誉教授とする事を決定、また現代音楽祭で知られるハッダースフィールド大学では現在委嘱中の作品の完成初演をもって名誉博士号を授与する予定であると発表した。またオーガナイズド・サウンド誌では2011年スモーリー65歳記念特集を組むため現在彼の論文や業績に関係する記事(彼の理論に基づいた音楽分析や彼の理論に基づいた発展的理論など)を募集している。詳しくは、<http://journals.cambridge.org>を参照。

2. フォルクマー・ハイン定年退職

ベルリン工科大学電子スタジオに長年所長として勤め、またドイツ電子音響音楽界の発展に貢献してきたフォルクマー・ハイン(Folkmar Hein)氏が2008年をもって定年退職した。

ベルリン工科大学電子スタジオは、同大学コミュニケーションサイエンス学科に属する。1954年にフリッツ・ヴィンケルにより「実験音楽スタジオ」の名称で設立された。1962年、当時ベルリン音楽大学学長であったボリス・ブラッハーに芸術的指導を委託、以後1970年の大阪EXPO出品など活発な創作期を迎えた。1974年ブラッハーの死去、ヴィンケルの引退、トーンマイスター・リュウファーの他スタジオへの移籍に伴い同スタジオは転機を迎えた。そのトーンマイスターの後任として、ハインは同スタジオ所長に就任する。ハインは同大学にて電子技術を、またベルリン音楽大学(HdK)にてトーンマイスター課程を学んだ。1975年以來ブランクであった教授職には1979年にマンフレッド・クラウゼが就任、新

しいコミュニケーションサイエンス分野のカリキラムがスタートした。以後DAADとの提携を通して内外の作曲家達への作品委嘱、また近年ではHdKの作曲科学生にも電子音響音楽が必修科目となり同スタジオも教育の場としての責を担うようになり、同スタジオでの制作は1980年以降年々増え、主なものだけでも年間平均12.23の制作が行われている。ハイン自身も、同スタジオにおける100以上の作品制作に携わって来た。共同制作者また技術協力者としてのみならず、DAADやHdKの協賛を得て1982年にInventionフェスティバルを設立、ドイツ電子音響音楽協会(DEGEM)創立メンバーであり91年から98年までは会長を務めるなど、ドイツの電子音響音楽界への貢献は大きい。またドイツ電子音響音楽協会の作曲家データベースの作成は、ハインの尽力によるものである(<http://www.kgw.tu-berlin.de/KW/Studio/EMDoku/EMInfo-D.html>)。ドイツ電子音響音楽協会は、2009年秋の総会においてハインの功績をたたえ、サウンドエンジニアとして多くの作曲家との関わりから得た豊富な経験を持つ同氏に、同スタジオに関わる多くの作品群によるコンサートプログラムのキューレーションを委託した。ハインによるプログラムは次の通り。

John Chowning “Turenas(1972)” (4ch)

Trevor Wishart “Vox 5 (1986)” (4ch)

Francis Dhomont “Vol d’Arondes (1999/2001)” (8ch)

Denis Smalley “Resounding (2004)” (6ch)

なおハインの後任にはアンドレ・バーテツキーとフォルカー・シュトレーベルの両氏が就任した。

3. 著者プロフィール

石井 紘美 (ヒロミ・イエンチ・イシイ)

石井紘美(ヒロミ・イエンチ・イシイ)博士 PhD (電子音響音楽作曲/音響美学)。DegeM、英国SAN会員。現在ケルン郊外に在住、Visual Music (Visualisationを伴う電子音響音楽)のキューレーターとして活動、これまでにCYNETart、ZKM、ベルリン工科大学、エッセン芸術大学、ドレスデン芸術協会、ポルトガルMusica Viva祭にてプレゼンテーション。また2009年ISCMのサポートによりヴェネズエラ公演シリーズ。

Discography:

Portrait CD “Wind Way” WERGO ARTS 8112 2, Schott Music & Media. “Dreaming Stones” on DEGEM CD05 Imaginäre Landschaften, Cybele 960 205.